



聴覚障害児

支援だより

No.2

令和4年10月発行

手話で『支援』

岡山県立岡山聾学校 きこえの相談室

Tel : 086-279-2127 Fax : 086-279-8960

E-mail : okaro08@pref.okayama.jp (きこえの相談室専用アドレス)



岡山聾学校は、聞こえにくいお子さんとその子どもにかかわる方々への支援を行う学校です。2学期も、支援のつながりとひろがり大切にしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

サマースクール



7月21日、3年ぶりに「サマースクール」を行いました。コロナ禍のため、今回は感染対策を行ったうえで、発音明瞭度検査、ワークショップ、交流タイムを行いました。難聴学級に在籍している小学生(1・3・5年生)が対象で、今回は、1年生4名、5年生3名の7名の参加がありました。発音明瞭度検査では、自分の発音の傾向を知る手掛かりとしました。ワークショップではハndsスピナーをつくったり、ネイルをしたりして高等部の学習の一端を感じとれたようです。「交流タイム」では、久しぶりに会った友達ともすぐに打ち解け、みんなでゲームを楽しんでいました。



発音明瞭度検査の様です。
1音ずつ丁寧に発音しています。



ワークショップでネイルケアをしています。「どのシールが似合うかな?」



廊下で「だるまさんころんだ」をしました。見つからないように、そっと歩いています。



ジェスチャーゲームの様です。
友達の動きをまねして、伝えています。



聴覚障害教育に関する研修会 報告



聴覚障害のある子どもの指導にかかわっている先生方を対象に、夏休みにオンデマンド配信で研修を行いました。聴覚障害についての基本的な内容を学んだり、支援の方法について理解を深めたりすることを目的としたものです。

今回は、岡山大学病院耳鼻咽喉科の片岡祐子先生から「難聴をもつ小・中・高校生の学校生活で大切なことーこれだけは知っておきたい難聴児に必要な配慮と支援ー」というお話をいただきました。その他、本校教員による、聴覚障害児の理解と教育、聴覚障害のある教員からのメッセージ、簡単な手話コーナーを配信しました。

受講された先生方からは、「具体的な支援の方法が分かった」「補聴器や人工内耳を装用していても教師の配慮が必要であることが分かった」「なかなか勉強できる機会が少ない聴覚障害児について学ぶことができて良かった」等の感想をいただきました。必要な情報を届けることができて聾学校としてもうれしいです。知りたいことや、困ったことなどがありましたら、いつでもご連絡ください。子どもたちの指導・支援とともに、先生方とのつながりも大切にしていきたいと思います。今後とも、よろしくお願いいたします。



夏の公開講座より



本校で行われた公開講座の様子や感想の一部を、ご紹介します。今年度もオンデマンドによる研修を行いました。

（講座） 「聴覚障害の基礎知識」

講師：医療法人さくら会 早島クリニック耳鼻咽喉科皮膚科 福島邦博先生

今年度はオンデマンド配信で行いました。難聴遺伝子や早期療育の重要性、多職種連携についてのお話でした。

参加者からは、福島先生のソフトな語り口と分かりやすい講義内容が大変好評で、「医療的な視点からの聴覚障害に関する専門的なお話が聞けて良かった」「早期教育ができることで後の学力にも影響することが分かった」「聴覚障害に関する専門性を大切にして今後の指導に生かしたい」などの感想をいただきました。

聞き逃したところを繰り返して試聴できるオンデマンド型は好評でしたが、手話通訳はその時だけになってしまったので、今後は画面に字幕を付けるなどの配慮をしていきたいと考えています。

現在社会保障審議会から通知されている、切れ目のない難聴児支援を確立すべく、私たちも各連携機関とともに支援をしていきたいと考えています。

※本校の公開講座は、センター的機能の一つとして、聴覚障害のある子どもたちにかかわっている先生方のニーズに応えることを主として願い、毎年夏に開催しています。今後もご参加ください。



通級指導教室



小学校に通う聴覚に障害のある子どもたちへの指導・支援の場です

「聴覚障害通級指導教室」が設置されているのは、岡山県では岡山聾学校1校のみです。



指導場所は、岡山（聾学校内）と倉敷（老松小学校内：サテライト教室）の2カ所です。指導・支援対象となるのは、通常学級に在籍する児童（小学生）です。ほとんどの授業を在籍学級で受けながら、週に1回程度通級指導教室に通います。指導・支援時間は45～90分です。

令和4年度は、70分を指導・支援の時間とし、岡山に3名、倉敷に10名の児童が、週に1回通級しています。

通級指導教室では、聴覚に障害のある子どもたちが、困り感や不安を解消し、生き生きと在籍校での生活を送ることができるように、個々の実態や課題に合わせて「自立活動」を中心とした指導をしたり、保護者への情報提供をしたりしています。また在籍校の担任の先生との懇談も行っています。難聴のお子さんやその保護者が周りにおられましたら、通級指導教室のことをお伝えください。



通級指導教室での児童との会話から～イヤホン・ヘッドホンの使用について～

一人一端末事業が進み、子どもたちが学校でタブレット等を使用することが増えてきました。総合的な学習の時間に各自で調べ学習をする場合や、外国語・外国語活動の時間に発音を聞くときなど、さまざまな場面で活用しているようです。その際、補聴器等を外してイヤホン・ヘッドホンの使用をしているという話を聞くことがあります。各自の聴力・聞こえ方によってフィッティング（調整）してある補聴器とは大きく違うものだということを理解し、耳（聴力）への影響がないようにしてほしいと思います。

- 具体的には
- ・他の児童はイヤホン等を使用し、補聴器を装用した児童はタブレット等から直接音を聞く。
 - ・補聴援助システムをタブレットの前に置く。
 - ・周囲の友達に影響が少なくなるように、少し距離をあける。

などの工夫をしながら、安全に活用してほしいと思います。



